

GRANDCUBE

Osaka International Convention Center

PRESS

Vol.38 2024 Spring

SPECIAL INTERVIEW

[株式会社大阪国際会議場 代表取締役社長 藤田 正樹]

グランキューブ大阪 リニューアルオープン! 万博とIRに向け、 MICE誘致を強化する

館内アップグレードレポート

中之島ビジネスフロントライン

Osaka Metro Group 「オンデマンドバス」

グランキューブ 大阪・関西 大阪IR開 大阪、関西

藤田 正樹 Masaki Fujita

1957年2月生まれ。1979年大阪瓦斯株式会社入社。
2010年執行役員、2013年取締役常務執行役員就任。
2016年株式会社オーグス総研取締役会長、
2020年から2022年まで同社顧問。
2023年4月、株式会社大阪国際会議場代表取締役社長就任。

グランキューブ大阪(大阪府立国際会議場)は4カ月に及ぶ大規模修繕を完了し、4月1日、リニューアルオープンしました。2025年の大阪・関西万博と2030年の大阪IR開業を控え、新装なった同会議場を運営する弊社が、地域活性化のためにできることとは——。その取り組みとビジョンを、代表取締役社長の藤田正樹が語ります。

施設とサービスを リニューアル

2023年4月に株式会社大阪国際会議場の代表取締役社長に就任して1年が経ちました。この1年間、グランキューブ大阪では「G7大阪・堺貿易大臣会合」をはじめ、47件の国際会議を開催することができました。お力添えくださった関係者の皆様、ご利用いただいた皆様に感謝申し上げます。

2023年度は、「全てのお客様に満足していただける空間を提供したい」という思いから、2000年の開業以来、初となる大規模リニューアルを行い、ハード面・ソフト面ともに充実させました。まず、12階の「レストラン グラントック」と「特別会議場」を改装し、「メインホール1階席」の座席と床を一新しました。さらに、同ホールに世界最高峰といわれるL-Acoustics社の音響設備を導入しました。内覧会にお越しいただいた皆様には、「高音がクリアに聞こえる」とたいへん好評でした。アマチュアの方々も利用される施設で、これほどグレードの高い設備

のあるホールは国内でも珍しいと言われていきます。プロのコンサートだけでなく、さまざまな機会にご利用いただければと思っています。

大規模修繕を終えて改めて思うのは、黒川紀章^{※2}設計の大阪府立国際会議場は、大阪の宝だということです。完成から23年経った今も、古さを全く感じさせません。その良さを知っていたかのように、ホームページも刷新しました。特にこだわったのは、ユーザビリティです。「敷居が高い」「何に使えるのか分からない」といったお客様からのご意見を受け止め、当館をどのように使えるのかイメージしていただけるよう設計しました。この機会に多くの方々に、「大阪の中心・中之島に立地する都市型MICE施設」「お客様の多様なニーズにお応えする総合交流施設」であるグランキューブ大阪を知っていただきたいと考えています。

また、大規模修繕を機に、中之島の立地を活かした「ユニークベニュープラン」の提供も始めました。これは、国内外からのお客様に、記憶に残る体験をご提供するサービスです。現在、水都大阪を感じられるリパークルーズや中之島にある美

術館の夜間開放やパーティーなど、さまざまなプランをご用意しています。今後も、美術館や歴史的建造物、美しい公園のある中之島の良さを感じられるユニークベニューを開発して、中之島全体で地域を盛り上げていきたいと思っています。

万博は大阪・関西発展の ターニングポイントになる

来年、「2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)」が開催されます。海外から多くの人々が来られ、世界の関心を集めるこの時期は、大阪や関西の魅力を世界に発信する絶好のチャンスです。この機会を活かすために現在、中之島にある企業や大学等と協働して、学術、アート、水都をテーマにした「中之島バビリオンフェスティバル2025」を計画しています。万博開催期間中の春と秋、中之島を回遊していただけるよう、さまざまな催しを企画していますので、是非、お越しください。

万博期間中、国際会議や展示会の大半は万博会場内で行われる予定ですが、テーマウィーク

グランド大阪がリニューアルオープン 万博と 業に向けてMICE^{※1}を誘致し、 の発展に追い風を吹かせる



やナショナルデー等が明確になれば、会場外での国際会議も増えるでしょう。それらを誘致するために、弊社はこれまで在関西総領事館や名誉総領事とのネットワークを構築してきました。さらに昨年11月には、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会主催の「International Participants Meeting (IPM) 2023 Autumn (国際参加者会議2023年秋)」がグランキューブ大阪で開催されました。海外から来られた皆様には、当施設の良さを知っていただき、会場の選択肢の一つに加えていただけたと自負しています。

また、大阪・関西万博テーマウィーク期間には、ヘルスケア・医療の国際展「Japan Health」がインテックス大阪で開催されます。この展示会は医療や医療機器、ヘルスケアに関する大規模な展示会で、今後は毎年開催することを目標としています。

大阪・関西には、多くの製薬会社や医療機器会社の拠点があります。この展示会を毎年実施すれば、それらの業界のネットワークが広がってイノベーションが生まれ、大阪はもちろん、日本全体の産業の発展にもつながるでしょう。そんな展示会に我々も協力したいと考え、今年9月、グランキューブ大阪で「Japan Health」への参画を呼び掛けるプレセミナーを行う予定です。こうした活動を通して、各国から来阪され

る方々とのネットワークも構築していきたいと思えます。

大阪IR開業に向けて MICEの誘致を強化する

MICEの誘致は、大阪が成長するためにも重要な活動です。今後はJNTO基準^{※3}だけでなく、ICCA基準^{※4}の国際会議も開催したいと考えています。特に、夢洲に国際会議場を擁する総合型リゾート(IR)が開業する2030年に合わせて大型の国際会議を誘致できれば、大阪のMICEはさらに活性化するでしょう。ただ、大型の国際会議を誘致するには3~4年はかかるため、遅くとも2027年までにアジアのライバル都市に負けない誘致組織を構築する必要があります。これまで大阪観光局を中心とする取り組みにより、今年は「IGLTA 世界総会 2024」の大阪開催が決定するなどの成果が出つつあります。今後も大阪誘致組織の強化に継続して取り組みたいと思えます。並行して弊社は、これまで推進してきた観光MICEに加えて、産業振興を意識したMICEの誘致活動においても中心的役割を果たしたいと考えています。そのためにも今後は、従来の活動に加えて、他のMICE施設やインターコンチネンタルホテルズグループに加入した

リーガロイヤルホテル、海外のコアPCO (Professional Congress Organizer)との連携をさらに強化して国際会議の誘致を強力に推進し、地域の発展に貢献したいと思えます。

※1 MICE:企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(インセンティブ旅行)(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字を使った造語で、これらのビジネスイベントの総称。国土交通省・観光庁の主導の下、日本政府観光局(JNTO)が中心となって推進。

※2 黒川紀章:日本を代表する世界的建築家(1934年-2007年)。独自の建築理論「メタポリズム」で知られる。代表作に「中銀カブセルタワー」、「国立民族学博物館」、「クアラルンプール国際空港」、「大阪府立国際会議場」他多数。フランス建築アカデミーゴールドメダル(1986年)、日本芸術院賞(1992年)、正四位旭日重光章(2007年)。

※3 JNTO基準:Japan National Tourism Organization.国際機関、国際団体(各国支部を含む)または、国内機関・国内団体(民間企業以外)が主催する会議で参加者数50人以上、参加国数日本を含む3居住国・地域以上、開催期間1日以上のもの。

※4 ICCA基準:International Congress and Convention Association.3カ国以上がローテーションで主催し、参加者数50人以上、定期的に開催しているもの。



2024/4/1 Mon. **Renewal Open!**

2000年4月開業以来初の全館休館を伴う

大規模修繕工事竣工

— 館内アップグレードレポート —



グランキューブ大阪(大阪府立国際会議場)は、2000年4月の開業以来、初の全館休館を伴う大規模修繕工事(工事期間:2023年12月1日~2024年3月31日)を経て、2024年4月1日(月)にリニューアルオープンいたしました。来年に迫る大阪・関西万博を契機に、「アジアで有数の都市型MICE施設」を目指すというビジョンのもと、施設の更なる利便性、快適性の向上に加え、より一層お客様にご満足いただけるよう、新サービスのご提案など、ハード・ソフト両面の充実を図りました。以下、館内アップグレードレポートをお届けします。社員一同、皆様のご来館とご利用を心よりお待ちしております。

「すべてのお客様にご満足いただける空間を提供したい」という思いを込め

RENEWAL POINTS

- 1 5階「メインホール」
世界最高峰の音響設備を導入
- 2 12階「特別会議場」・「レストラン グラントック」
質感をグレードアップ
- 3 10階 会議室
可動間仕切りを設置
- 4 5階 ラウンジ/ビジネスセンターの設置
- 5 その他の工事(通信設備の整備、多機能トイレ自動ドア化、万博PRラッピングなど)

5階「メインホール」に世界最高峰の音響設備を導入

世界有数の音響メーカーのL-Acoustic社のスピーカーを導入しました。メインホールの座席位置に関わらず、格段にクリアになったサウンドをお楽しみ頂けます。また、調光・照明設備に次世代記憶調光操作卓Panasonic製「JASTO」を導入。さらに、1階席の座面とカーペットを一新し、ゆったりとした心地よい空間に生まれ変わりました。

■世界最高峰の音響設備導入

- ・メインホールの常設スピーカー及びステージスピーカーに、世界有数の音響メーカー「L-Acoustics」社製のスピーカーを導入し、より格段に向上したクリアな音をご提供
- ・開業以来使用してきたアナログ音響システムをデジタル音響システムに全面更新



天井に設置したプロセニアムスピーカー



特設ラインアレイスピーカー(スピーカーA)

「L-Acoustics」社 フランスのプロ仕様のオーディオメーカーで、同社の製品は、プロ仕様オーディオの最高の栄誉ともいわれるバーネリ賞など国際的な表彰を受け、世界中の劇場、ホールで採用されています。日本では、2023年完成の「Kアリーナ横浜」で同社製品を導入しています。

グランキューブ大阪の歩み

■誕生までの経緯

■調光・照明設備刷新

メインホールへのカラーLED照明の導入を次年度以降に見据え、記憶調光操作卓の新スタンダードモデルである次世代記憶調光操作卓Panasonic製「JASTO」を導入。LEDカラー照明器具の制御はタッチパネル、調光器具の仕込みや本番再生は使い慣れた操作環境を維持し、オペレーション・ワークフローの効率化を実現。



■メインホール1階席座面取替・床カーペット張替

1階席の客席座面を一新し、床カーペットの全面貼替を実施することにより、ゆったりとして心地良く、明るく華やかな非日常へと誘う客席空間を演出

12階「特別会議場」と「レストラン グラントック」の質感をグレードアップ

■「特別会議場」～高級感あふれるハイグレードな演出

12階特別会議場のみに取り付けられたドアハンドル(黒川紀章オリジナルデザイン)に焼付塗装を施し、開業当初のシャープな質感と華やかな色味を再現しました。また、室内の床を、毛足の長いタイルカーペットに張替え、靴底からも重厚感を感じられる、より洗練された特別な空間に模様替えしました。

■「レストラン グラントック」～建築デザインが際立つ洗練された内装

室内カーペットを一新し、シックで落ち着いたある雰囲気生まれ変わりました。世界的建築家黒川紀章がデザインした空間で、地上80mの開放的な景色を存分にお楽しみいただきながら、上質な食事とサービスを堪能いただけます。

10階 会議室に可動間仕切りを設置

1008会議室と1009会議室の間に、可動間仕切りを設置しました。両会議室の「一体利用」と「分割利用」が可能となり、利用スタイルが広がりました。

5階 ラウンジ／ビジネスセンターの設置

5階にラウンジを設置しました。ラウンジには飲食可能な休憩スペースを設けており、ワーキングスペースとしても利用いただけます。また、同フロアにビジネスセンターを移転させ、主催者や来館者の利便性の向上を図りました。

その他の工事

(通信設備の整備、多機能トイレ自動ドア化、万博PRラッピングなど)

■音響機器の更新

12階特別会議場のみを設置されている、JBL社のスピーカーを更新しました。世界有数の音響機器メーカーであるJBL社のスピーカー機能により、音の反響や残響が低減し、ドーム型空間でもクリアなサウンドをお楽しみいただけます。また、イベントホール・メインホール・1001-1003会議室にはYAMAHA製デジタルミキシングシステム(音響機器)とSHURE製デジタルワイヤレスマイクを導入し、音質の向上を図りました。

■5G通信設備の整備

5G通信設備を増設しました。NTTドコモ及びauのご利用者様は、特別会議場、メインホール、イベントホールで、5G通信をご利用いただけます。

■多機能トイレの自動ドア化

ユニバーサルデザイン推進のため、お客様のご利用される多機能トイレを全て自動ドアにしました。

■万博PRラッピング

万博機運醸成と施設の賑わい創出を目的に、グランキューブ大阪1階の全エレベーター扉(14基)に2025年大阪・関西万博と大阪ヘルスケアナビリオンのPRラッピングを施しました。

1984年 財団法人大阪21世紀協会において会長の諮問機関である国際会議場建設準備委員会が中心となり国際会議場の建設に関する検討が開始される。

1989年3月 財団法人大阪21世紀協会(現「公益社団法人関西・大阪21世紀協会」)に設置された国際会議場建設準備委員会から「大阪都心部に国際交流の中核施設として国際会議場を建設する必要がある、施設内容は世界各都市に比肩し得る第一級のもので大阪のシンボルになり得るものであること」を提言。

1989年5月 大阪府、大阪市、関西経済連合会、大阪商工会議所の4者で大阪国際会議場建設推進協議会(以下「推進協議会」)が設置。

1994年1月 第4回推進協議会において、次のとおり合意。
・国際会議場の建設及び用地確保は大阪府が行う。
・周辺道路などの整備は、地権者の協力を得ながら大阪府が中心となる。行。
・国際会議場の運営は、大阪府・大阪市と共に経済界が最大限の協力を行う。

1994年6月 全国初の公募型プロポーザル方式により「黒川・イブスタイン・アラップ共同企業体」を基本設計事業者に選定。



1996年4月 第5回推進協議会において、建設規模・施設概要、周辺道路の整備等のほか次のとおり合意。
・施設運営は(株)大阪国際貿易センター(現(株)大阪国際会議場)が行うこと。
・コンベンションの誘致開催のため大阪コンベンション・ビューロー(現「公益社団法人大阪観光局」)を改組・充実し、財団法人化。
・施設の管理運営のため、経済界は大阪府の基金に15億円を拠出。

1996年8月 (株)大阪国際貿易センター所有地において大阪府立国際会議場の建設開始。



1996年9月 (株)大阪国際貿易センターが(株)大阪国際会議場に商号変更。

1999年12月 大阪府立国際会議場竣工。



2000年4月 大阪府立国際会議場(愛称「グランキューブ大阪」)開業。
同年9月には大阪府・市・経済界をはじめ国内外の著名人約2500人を迎え、大阪府立国際会議場開業記念式典「新世界 大阪国際フォーラム」を開催。



■開催された主要な国際会議等

2001年9月 第14回 世界観光機関総会:皇太子殿下(現今上天皇陛下)ご臨席のもと、我が国で初めて開催され、世界117ヶ国から1,400名を超える観光関係者が参加し、「21世紀における持続可能な観光に向けた」取り組みが議論されました。

2002年9月 第8回 国際エネルギーフォーラム:世界65ヶ国と10の国際機関からのべ5,000人が参加の下、我が国で初めて開催されました。

2005年11月 第117回 IATA 空港発着調整会議:世界の混雑空港の路線やダイヤの決定に関わる航空会社約250社、空港コーディネーター約40団体など各国の航空関係者約1,100名が参加し、我が国で初めて開催されました。

2007年10月 第17回 アジア・太平洋会計士会議:皇太子殿下(現今上天皇陛下)ご臨席の下、日本、中国、アメリカ、インド、オーストラリア、ニュージーランドなど、21ヶ国、34団体から約6600人の参加がありました。

2008年6月 G8サミット 財務大臣会合:2008年8月に北海道洞爺湖で開催されるG8サミットに先立ち、財務大臣会合が開催され、世界経済の成長やヘッジファンドを含む国際金融市場の動向や地球環境問題、アフリカの発展・貧困救済、資金浄化・テロ資金対策など幅広い分野について議論されました。



2019年6月 大阪サミット会合シェルバ会合:2019年6月24日から27日までの期間、サミットに先駆けG20メンバー、招待国、国際機関の代表者が一堂に会し、G20大阪サミットにおける首脳宣言の取り纏めに向けた議論が展開されました。「シェルバ」は、登山において、登山者を山頂(サミット)に導く補助者を意味します。シェルバ達は、大阪サミットの成功に向けてG20首脳を導く重要な役目を担っています。



2021年 5月～11月 自衛隊大阪大規模接種センター:新型コロナウイルス蔓延により、2021年5月24日から11月30日までの191日間、自衛隊による大規模接種センターが開設されました。1日最大5,000名の方々にワクチン接種を行いました。



2023年10月 G7大阪・堺貿易大臣会合:2023年10月28日、29日の2日間、G7サミット(主要国首脳会議)の関係閣僚会議で、主要7ヶ国及びEUにオーストラリア等の招待5ヶ国と世界貿易機関等の国際機関を交え、貿易分野における国際的な課題について議論されました。



株式会社
大阪国際会議場
総務企画担当次長
松尾 浩伸

株式会社
大阪国際会議場
営業部誘致課
土橋 凌

大阪市高速電気軌道
株式会社
交通事業本部
オンデマンドバス推進課長
平岡 陸氏

大阪市高速電気軌道
株式会社
交通事業本部
オンデマンドバス推進課係長
山原 一悟氏

“迎えに来る”オンデマンドバスと電車やバスをシームレスにつなげ交通に大変革を起こす。

中之島に関わる著名企業・施設を大阪国際会議場社員が訪問し、その事業や活動を紹介する「NAKANOSHIMA BUSINESS FRONTLINE」。第13回目となる今回は、オンデマンドバスの運行を開始し、将来予測される交通課題の解決を目指す大阪市高速電気軌道株式会社オンデマンド事業部平岡陸オンデマンドバス推進課長と山原一悟オンデマンドバス推進課係長に、総務企画担当次長の松尾浩伸と営業部誘致課の土橋凌がお話をお伺いしました。

オンデマンドバスで 自由自在な移動が可能に

松尾 本日はお時間を谢谢你们、ありがとうございます。先日、グランキューブ大阪前から梅田まで、オンデマンドバスを初めて利用させていただきました。8人乗りの車内は広く、快適ですね。梅田界隈のビジネスホテル前にも乗降場所があるので、会議後、宿泊されるお客様にも便利に使っていただけたと思います。

山原 ありがとうございます。目的地のすぐ近く



まで行けるので、特に雨の日や大きな荷物がある時は便利、とご好評いただいています。**土橋** 運賃もリーズナブルだと、弊社社員も利用させていただいています。導入の背景を教えてくださいませんか？

平岡 人口減少、移動ニーズの多様化、SDGsへの貢献などがあります。また今後、移動需要に影響する生産年齢人口の減少、大阪市内人口の都心6区への集中により利用者が減り、都心から離れた地域では、路線バスなどの公共交通の維持が困難となると懸念されています。そうした背景から「交通を核にした生活まちづくり企業」である弊社は、「都市型MaaS (Mobility as a Service) 構想」を推進しています。これは、4層の事業活動と高度なDXを組み合わせ、事業の持続的成長と大阪の活性化への両立を目指す事業構想です。オンデマンドバス事業はその4層の1つである「自由自在な移動のパーソナル化」の実現を目指して、多様な交通手段をシームレスにつなげるモビリティの一つとして導入しました。

山原 オンデマンドバスは、乗りに行くのではなく「迎えに来る」。それが、既存のバスとの大きな違いです。また、予約制なので個別にタイムリーな移動が可能です。現在は生野区、



平野区、北区、福島区の4区5エリアで運行しており、運賃(大人料金)は北区・福島区で300円、生野区・平野区で210円。これまで、延べ約62万人の方にご利用いただいています。移動はエリア内に限りませんが、運行時間は6時から23時までと長く、乗降場所も既存のバス停より多く設置しています。3日前から予約でき必ず座れるとあって、お客様に喜ばれています。

事前予約でスムーズに移動

土橋 導入から約3年が経過しましたが、どのようなニーズや課題がありますか？



山原 利用者数は増加傾向にあり、時間帯によっては予約が取りづらい状況です。また、運行エリア外の方からお問い合わせもあるので、ニーズはあると感じています。その一方で課題に挙がっているのは採算性です。通院などで高齢者のご利用は定着していますが、一度に複数のお客様をお運びするまでには至っていません。同時に2人以上乗っていただけるようなアプローチも今後は必要だと考えています。

松尾 実は、会議やコンサートの後、大阪府立国際会議場前は、タクシー待ちのお客様でとても混雑しているんですよ。来場者の皆様に事前にオンデマンドバスを案内すれば、スムーズに移動していただければいいですね。

山原 ぜひ、お願いいたします。

土橋 企業や施設向けのサービスも始めら

れたそうですが、どのような内容でしょうか？

山原 乗降場所に名前をつける「ネーミングライツ」はそのひとつです。「〇〇病院前」「△△ホテル前」と命名できるので好評いただいています。また、駅から離れたホテルと連携して、チェックアウトされたお客様を大阪駅までお運びするオンデマンドサービスも試験的に運用しています。

多様な交通手段をシームレスにつなげる

土橋 今後のオンデマンドバスの活用、Osaka Metro Group様の展望をお教えください。

平岡 2025年までには、電車やバス、オンデマンドバスなどの多様な交通手段をシームレスにつなげ、お客様一人ひとりにとって圧倒的に便利な“交通の大変革”を実現したいと思っています。そのためにもまずは、オンデマンドバスの運行エリアを大阪市内全域に順次拡大し、小型モビリティを幅広くそろえていく予定です。また、2035年までには、交通サービスとさまざまな日常サービスを完全に融合させ、必要なサービスが迅速に提供される世界を実現したいと考えています。

土橋 未来が楽しみです。オンデマンドバスの運行エリアであり、中之島にある大阪国際

会議場は、MICEを推進しています。Osaka Metro Group様と弊社は今後、どのように連携できるでしょうか？

平岡 現在、約20人ご乗車いただける車両でのオンデマンドバスの運行を検討しています。それを使って、会議後にお客様をホテルなどの施設にお運びできればと考えています。

松尾 それは助かります。以前、会議後に大阪中之島美術館で懇親会を行ったときは、参加者の皆様に徒歩で美術館まで移動していただきました。今後、近隣でアフターコンベンションを行う際、20人乗りのオンデマンドバスを活用すれば、より快適にご移動いただけると思います。

平岡 ほかにご要望があれば、ぜひお知らせください。ご協力できるよう我々も積極的にアクションを起こしたいと思っています。

松尾 心強いです。本日はありがとうございました。

対談実施日：2024年4月5日





パンフレット表紙



デマンド・システム



当時の運行バスの内部とコントロールセンター

阪急バスによる日本初のオンデマンドバスのパンフレット【図版提供：橋爪紳也コレクション】

利用者の要求 (demand) に応じて移動サービスを提供するデマンド型交通を、英語ではDR T (demand-responsive transit) などと称する。

都市部では過密する自動車交通に対処するべく、過疎地では公共交通の採算性を確保する意味から、デマンド型の乗り合いバスの研究が始まる。デマンドバスには、運行経路を固定して希望する場所でのみ乗降が可能な「簡略型」と、特定のエリア内に多数のミーティングポイントを定めて予約が入った段階でルートを決める「エリア型」がある。

日本におけるデマンドバスとしては、いすゞ

自動車が開発したシステムを採用、阪急バスが大阪府豊能郡能勢町で運行した事例が最初になる。阪急電鉄池田駅と能勢町役場までは路線バスが連絡するが、その先へは「簡略型」のデマンドバスに乗り換える。昭和47年(1972)6月に新たな方式が始まった。

事業者は27人乗りのバスを3台配車、ロケーションシステムでバスの位置と運行状況を常時把握する。利用者は、乗車する停留所と目的地、利用人数を電話で伝える。これを受けたコントロールセンターが最適なルートを調整、通信機器を介して運転者に指示をする。携帯電話やインターネットのない時代、乗客はバスが到着する時間を事前に確認することができた便利なシステムである。

当方の手元に「日本で初のデマンドバス」が運行を開始した際に配布されたパンフレットがある。そこには無駄のない運行による経済性と、地域のスケールに応じてプログラミングができる柔軟性にデマンドバスの将来性が見えている。

デマンドバスの開発に関与した運輸省の計画官は、「最終的には、コンピューターで人々の需要にきめ細かく対応し、自家用車に近い機能、いわば、無線相乗りタクシーに近いような機能をもつこと」が狙いであると述べている。今日のオンデマンドバスのあり方が予言されているように興味深い。

近年、デマンドバスの技術は著しく進化、大阪メトロは2021年3月から生野区と平野区で、2022年4月からは北区と福島区でも「AIオンデマンド交通」の運行を行なっている。採算面の課題を解決するべく、デマンドバス事業が始まってから50年が経過した。郊外だけでなく都市でも運用されるようになったが、半世紀前に指摘されていた公共交通が抱える課題の本質は変わっていない。

中之島 トリビア

日本版デマンドバスは大阪で始まった

NAKANOSHIMA TRIVIA

第13回



橋爪紳也 Shinya Hashizume
大阪公立大学研究推進機構特別教授
大阪公立大学観光産業戦略研究所長

3/14[木]

ユニバーサルマナー検定2級 研修を実施

「多様な方々に適切なサポートができる人になる」ことを目指し、ユニバーサルマナー検定2級研修を行いました。実技研修で実践的なサポート方法を学び、さらに専用の機材を使った当事者体験を通して理解を深めました。



3/25[月]

AED操作・簡易組み立てトイレ 設置講習を実施

津波を想定した防災訓練の実施と併せて、AEDの操作と簡易トイレの組み立て方法の講習を行いました。地震災害に備え、防災力の向上につながるものとなりました。



EVENT INFORMATION

グランキューブ大阪で開催されたイベントをご紹介します。

イベントカレンダー

<https://www.gco.co.jp/event/>



FINISHED [会期終了]

2024. 4/17-21

会場:3階イベントホール(展示会)、5階メインホール(講演会)、11階1101、1102(ワークショップ)

第78回日本書芸院展 -伝統と創意-

公益社団法人日本書芸院と読売新聞社が主催する、書道展覧会が開催されました。書道作品の展覧会に加え、記念講演会やワークショップなど、様々な催し物が開催され、大変ごたえのある展覧会となりました。



2024. 4/24 会場:12階特別会議場

2025大阪・関西万博に向けた未来社会デザイン シンポジウム2024万博1年前イベント ～大阪ヘルスケアパビリオンの魅力と未来への発信～

大阪ヘルスケアパビリオン協力機関の日本抗加齢協会が主催する、2025年 大阪・関西万博に向けた未来社会デザインシンポジウム2024が開催されました。シンポジウムでは大阪パビリオンの魅力や、大阪のヘルスケアなどについて闊達な意見交換がなされ、盛会のうちに終わりました。

【主催】特定非営利活動法人日本抗加齢協会
【共催】公益社団法人2025年日本国際博覧会大阪パビリオン、大阪商工会議所、日本抗加齢医学会、株式会社大阪国際会議場



《電車》

- 京阪中之島線「中之島(大阪国際会議場)駅」(2番出口)すぐ
- JR大阪環状線「福島駅」から徒歩約10分
- JR東西線「新福島駅」(2・3番出口)から徒歩約10分
- 阪神本線「福島駅」(3番出口)から徒歩約10分
- 大阪メトロ「阿波座駅」(中央線1号出口・千日前線9号出口)から徒歩約15分

《バス》

- JR「大阪駅」駅前バスターミナルから、大阪シティバス(53系統 船津橋行)または(55系統 鶴町四丁目行)で約15分、「堂島大橋」バス下車すぐ
- シャトルバスが、「リーガロイヤルホテル」とJR「大阪駅」桜橋口の間に運行しており、ご利用いただけます(定員28名)
- 中之島ループバス「ふらら」で地下鉄・京阪「淀屋橋駅」(4番出口・住友ビル前)から約15分

株式会社 大阪国際会議場

OSAKA INTERNATIONAL CONVENTION CENTER CORP.

〒530-0005 大阪市北区中之島5丁目3番51号
Tel.06(4803)5555(代表) Fax.06(4803)5620



GRANDCUBE PRESSは、地球にやさしい広報誌。
この印刷物は環境に配慮した植物油インクを使用しています。